

インフルエンザワクチンは接種すべき？！



インフルエンザは、風邪（普通感冒）とは違い、悪寒・発熱・筋肉痛・咽頭痛・関節痛・頭痛などの症状が急激に起こるのが特徴で、ウイルスの増殖が著しく速いため潜伏期が短く、朝は元気であった人が夜には全身症状に打ちのめされて寝込んでしまうという状況が多く見受けられます。新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見込めない今年の冬、インフルエンザは流行するのか？ワクチンは接種はした方が良い？

昨年度はインフルエンザがほとんど流行しませんでした。昨シーズン前のインフルエンザワクチン株に対する抗体保有者は決して高いものではなかった事に加え、流行もなかった事より感染者も少なく、今シーズン、インフルエンザに対して感染しやすい状況となっております。

インフルエンザ同様、昨シーズンは新型コロナウイルス感染症の流行により小児のRSウイルスは流行しませんでした。RSウイルスの免疫をもたない子どもが増えた影響か、本年度に大流行したことは記憶に新しいと思います。

同様な事が、インフルエンザにも起これば。。。

日本ワクチン学会はインフルエンザの罹患率や死亡率を低下させるため生後6か月以上のすべての人に対するインフルエンザワクチンの接種を推奨しております。

インフルエンザワクチンの有効性：

◆ 65歳以上の高齢者福祉施設に入所している高齢者については34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。

◆ 6歳未満の小児を対象とした研究では、発病防止に対するインフルエンザワクチンの有効率は60%と報告されています。

今シーズンのインフルエンザワクチンの供給量は、昨シーズンの使用量を15%ほど下回る見通しで、供給ペースも遅れるとの事です。高齢者や乳幼児、妊婦など、特に接種が推奨される方は、早めの接種をお勧めします。



新型コロナウイルスワクチンとは接種間隔を2週間以上あける必要があります。

インフルエンザワクチン接種は、
10月15日（金）より開始いたします。（事前予約不要）